

科目区分	専門教育科目	科目名	子ども家庭支援論		科目コード	20Y600	担当者	荒木 正平			
対象学生	幼児教育学科 1年生	学期区分	後期		単位数	2	担当形態	単独			
		授業区分	講義								
科目		施行規則に定める科目区分又は事項等				卒業要件	選択				
						免許・資格要件	保育士必修				
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
子育て家庭の現状についての理解を深めることで、保育者という立場から、子育て家庭の支援に積極的にかかわることの意義と重要性を認識できる。						1. 「 <b>良心</b> 」 誠実な人柄と 人間力	2. 「 <b>創造</b> 」 高度な知性と 創造力	3. 「 <b>実践</b> 」 明確な意思と 実践力			
科目の到達目標						① 誠実性・真摯性	② 多様性・協働性	③ 知識・技能	④ 表現力・創造力	⑤ 実行力・自立性	⑥ 就業力・貢献力
1.	子どもの育ちにおける家庭の意義と機能について理解する。										
2.	子育て家庭の現状や、それを取り巻く社会状況を理解する。										
3.	子育て家庭を支援する制度や社会的資源を理解する。										
4.	子育て家庭支援における、保育士としての役割を認識する。					○	○	◎	○		
5.						成績評価の方法と割合					
授業方法						定期試験（60%） 提出物（30%） 受講態度（10%）					
講義形式での授業が中心となるが、家庭支援の実際についての理解を促すため、視聴覚教材等も積極的に活用する。その他、ミニレポートなどの提出を課題とすることで、テーマについて学生自身がより深く考える機会を設ける。											
課題等への対応						授業外学修時間					
学生が提出したレポート課題などについては、授業時に全体で紹介するなどのかたちでフィードバックする機会を設ける。成果を共有することで、学生全体の理解が深まるように支援する。						予習・復習の時間として、一回の授業につき60分程度は確保してほしい。					
回数	授業計画					学習課題（予習・復習）					
第1回	子どもの育ちにおける家庭の意義					教科書・レジュメを参考に、子育てにおける家庭の意義について予復習する					
第2回	子どもの育ちにおける家庭の機能					教科書・レジュメを参考に、子育てにおける家庭の機能について予復習する					
第3回	家庭支援の必要性					教科書・レジュメを参考に、家庭支援の必要性について予復習する					
第4回	保育者が行う家庭支援の原理Ⅰ					教科書・レジュメを参考に、保育者が行う家庭支援について予復習する					
第5回	保育者が行う家庭支援の原理Ⅱ					教科書・レジュメを参考に、保育者が行う家庭支援について予復習する					
第6回	現代の家庭における人間関係					教科書・レジュメを参考に、現代家庭における人間関係について予復習する					
第7回	家庭生活を取り巻く社会的状況					教科書・レジュメを参考に、家庭を取り巻く社会的状況について予復習する					
第8回	男女共同参画社会とワークライフバランス					教科書・レジュメを参考に、男女共同参画社会等について予復習する					
第9回	子育て家庭の支援体制					教科書・レジュメを参考に、子育て家庭の支援体制について予復習する					
第10回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進					教科書・レジュメを参考に、子育て支援施策等について予復習する					
第11回	子育て支援サービスの概要と連携					教科書・レジュメを参考に、子育て支援サービスの概要等を予復習する					
第12回	保育所による家庭支援					教科書・レジュメを参考に、保育所による家庭支援について予復習する					
第13回	子育て支援と保護者の関係づくりへの支援					教科書・レジュメを参考に、保護者の関係づくりについて予復習する					
第14回	地域の子育て家庭への支援					教科書・レジュメを参考に、地域の子育て支援について予復習する					
第15回	子育て支援サービスの課題とこれから					教科書・レジュメを参考に、子育て支援サービスの課題について予復習する					
試験	定期試験を実施する										
教科書	「子ども家庭支援論 新・基本保育シリーズ⑤」松原康雄・村田典子・南野奈津子編 中央法規				受講生へのメッセージ	保育者として子どもを支えるためには、その家庭（親、保護者を含む）も合わせて支援の対象と考え、子どもとともに支える視点を持つことが大切です。様々な課題を抱える家庭を支えるために保育者として何ができるのか。ともに考えていきましょう。					
参考書等	なし										